

連携・協働の力・タ・チ

令和3年2月2日発行 福島県教育庁会津教育事務所



生徒を変えた！ ～長崎市立緑が丘中学校の取組①～

地域の「ありがとう」のシャワー

昨年11月に開催した「地域連携担当教職員等研修会」の講義で紹介した長崎市立緑が丘中学校のボランティア活動の取組について、今回、そして次回にわたり紹介します。（紹介する取組は、平成30年度及び令和元年度のものです。）

下は、ボランティア活動の成果についての本田勝一郎前校長先生と高田浩一教頭先生のお話です。

長崎市立緑が丘中学校 本田勝一郎 前校長先生のお話

かつては、生徒指導に困難さが見られたが、教職員が生徒を認め、地域と協力を重ねたことにより、学校全体が良き方向に大きく変容し地域から信頼されるようになってきている。

地域に貢献しようとする生徒と学校を応援しようとする地域。相互連携の仕組みががちりかみ合ってきた。

地域の「ありがとう」のシャワーが、子どもたちを大きく変えたと感謝している。

長崎市立緑が丘中学校 高田浩一 教頭先生のお話

ボランティアデーを契機に、地域の方とあいさつや会話をする生徒が増えた。

地域の方から、あいさつで褒められることとお礼を言われることが多くなった。

お年寄りが道端にうずくまっていた時に、声をかけ、自然と手を差し伸べる生徒の姿が見られた。

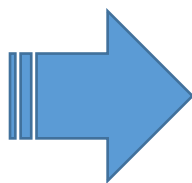
荷物を持っているお年寄りに声をかけ、荷物を持って坂を上る生徒が見られた。

緑が丘中学校の前校長本田勝一郎氏が本校に赴任された時、生徒の自己肯定感が様々な調査において全国平均の約2割減でした。本田氏は、「これを何とかしたい」と思い、それまで校内で取り組んでいたボランティア活動を校外に広げたいと考えました。

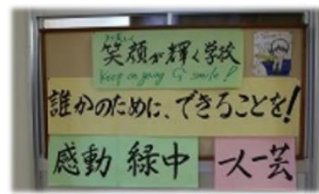
ボランティア活動を校外に広げる

生徒の自己肯定感
(2017年4月)

全国平均の約2割減▼



2018年度
自己肯定感を高める糸口として
「誰かのためにできることを」
スローガンに掲げ、生徒会役員に問いかけた



緑が丘中学校では、2016年に発生した熊本地震の被災者に義援金を送るため、生徒会役員が中心となって、アルミ缶、古紙等を集めて換金する活動を前年度から行っていました。本田前校長先生が、3年生のほぼ全員と高校入試のための面接練習をした際、「本校はどんな学校ですか」という問いに対して「ボランティアに力を入れている学校」という回答がとても多く驚かされたそうです。それならば、この取組を糸口に、自己肯定感を高めようと、2018年度に「誰かのためにできることを」とのスローガンを掲げ、生徒会役員に「ボランティア活動をさらに発展させるにはどうしたらよいか」と問いかけました。すると、生徒たちは、日頃お世話になっている方々に感謝を表すため、地域に出向いて公民館や公園などを清掃したいという思いを語り、ボランティア活動を校外に広げることになりました。

生徒会とPTAとの連携を図り、保護者の協力を求める

生徒会役員の生徒らは、生徒総会での議案書作成に向けて、PTA役員の方々と話し合いを行い、保護者の協力を求めました。そして、生徒総会では「ボランティアデー」の計画案や資源回収によって得られたお金で熊本県の被災した学校へ支援するという提案についての話し合いを行いました。



生徒会役員とPTA役員との話し合い

生徒総会で「ボランティアデー」の計画案等について話し合う生徒たち



自治会長さんたちへ活動の説明をし、協力を依頼する



生徒会役員と校長先生が各地区の自治会の会議に出席し、ボランティア活動の趣旨を伝え、活動内容の説明と協力をお願いしました。賛同が得られた自治会には、その後、生徒会の役員がそれぞれの自治会長宅を訪れ、具体的な活動内容・方法について打合せを行いました。

「ボランティアデー」に向けて動き出す生徒たち

生徒会役員が、熊本訪問で知った被災地の現状やボランティアの意義について集会で報告し、全校生徒で共有したり、地区毎の話し合いを行ったりして、「ボランティアデー」に向けて準備を進めました。



【生徒会集会でボランティアの意義等を確認】



各地区に掲示するポスターは美術部の生徒が作製しました。



【生徒会役員と各地区担当の先生方による打合せ】



【ボランティアデー前日の担当地区ごとの話し合い】

次号は「ボランティアデー」当日の様子等について紹介します！